神奈川県立歴史博物館だより

平成 29 年 6 月 22 日発行
通巻 205 号

JUN. 2017 Vol.23 No.1
Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History

資料紹介　伊勢原市・大山寺の木造不動明王坐像について … 2
神奈川県博開館 50 周年記念プロジェクト、始動！ …… 6
休館中の活動紹介 …… 8
これからの催し物 …… 8

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History

資料紹介　伊勢原市・大山寺の木造不動明王坐像について

神野　祐太

神奈川県の仏像彫刻は仏師運慶の活躍した鎌倉時代が最も注目されています。しかし、日向薬師宝城坊の薬師如来及び両脇侍像や弘明寺（ぐみょうじ）の十一面観音菩薩像の、鉈（なた）彫りの仏像に代表されるように県内には少なからず平安時代の彫刻が残されています。県内に現存するすべての作例を把握することは難しいですが、これまでの各市町村の悉皆（しっかい）調査などで判明しているものだけでも総数は100軀（く）を優に超えます。県内の国指定重要文化財と県指定重要文化財の数は、152件（国74件〔国宝1件含〕、県78件）で、そのうち平安時代の仏像は、29件（国10件、県19件）になり、鎌倉時代の102件(国59件､県43件)に次ぐ件数となっています。

そこで小稿では、県内の平安時代の仏像をもっと知ってもらうために、その中でも注目される伊勢原市・大山寺所蔵の不動明王坐像（写真1～9）について紹介します。同寺は神奈川を代表する古刹として知られ、本尊は鎌倉時代に造られた鉄造不動明王及び両脇侍像です。『大山寺縁起』や『大山不動霊験記』によれば、奈良時代に良弁の開基とも伝えられており、鎌倉時代には幕府との関係が深く、江戸時代には大山詣りで賑わいました。今回紹介する不動明王像は、本尊の鉄造不動のかげに隠れがちですが、伊勢原市の仏像等彫刻調査によって見いだされ、昭和59年(1984)、神奈川県重要文化財に指定されました。現在は、五大明王の中尊として、本堂左脇須弥壇（しゅみだん）に安置されます。

像高は49.6㎝、髪際高は45.2㎝（一尺四寸九分）で三尺を測る坐像とみられます。他の法量の詳細は以下の通りです（単位は㎝）。

頂―顎	14.6	面　長	10.3	面　幅	9.6
耳　張	13.0	面　奥	14.1	胸奥（左）	14.4
同（右）	13.7	腹　奥	16.4	肘　張	35.5
膝　張	44.7	膝　奥	32.3	像　奥	34.0
膝高（左）	9.4	同（右）	9.3		

形状をみていくと、顔は正面を向き、額に三本のしわを刻みます。眉根をよせ、目は目頭と上下瞼をそれぞれ孤の形で縁取り、上の歯で下唇を噛み、いかりの表情をあらわします。髪は総髪とし、頭部の左側面で編み込みをあらわしながら、耳前の一か所を紐二条で結び左肩に垂らし弁髪とします。頭頂部には、沙髻（しゃけい）を矧いだ痕跡が残ります（写真9）。上半身には左肩から右脇腹にかけて細い布（条帛（じょうはく））、下半身には巻きスカート（裙（くん））と腰布をまとっています。腰布は正面に結び目をあらわします。両手をまげ、左の手のひらを上に向け縄（羂索）を執り、右の手のひらを内に向け剣を持ちます。左足の上に右足をのせ半跏趺坐（はんかふざ）とします。

材質は、ヒノキ材かと思われる針葉樹材を用います。構造は、頭部と体幹部の主要な部分を前後二材で矧（は）ぎ、それぞれの材を正中線で左右に割り矧ぎ、内刳（うちぐ）りのうえ割り首します（このように頭体幹部に二材以上の材を用いる造像技法を寄木造りといいます）。両腰脇に三角材をそれぞれ矧ぎ、両脚部材は横木一材製で、各材に内刳りをほどこします。両肩先は、肩・肘・手首でそれぞれ矧ぎます。表面は、布貼りのうえ、黒漆塗り、白下地とし古色を呈します。

保存状態は、沙髻・条帛の衣端が亡失、持物・光背・台座・表面の古色塗り・胸飾り（金属製）・臂釧（同）・腕釧（同）、以上後補。本体の状態は良好で、大切に伝えられてきたものと思われます。

このような両目を見開き、上歯をみせる不動明王は、弘法大師が請来した曼荼羅に描かれた不動明王の姿と一致することから、弘法大師様と呼ばれ、平安時代以降にひとつの規範として多く造られました。

作風をみると、正面観が細身に造られるのに対し、側面にまわると腹が大きく出ていることがわかり、厚みのある体軀となっています。背中のまるみも自然で、臀部のふくらみをあらわします。裙の布の下にあるふくらはぎの肉感をあらわし、正面で八の字状に左右各三本の衣文をあらわしています。右足首の衣端を折り返しています。

これらの特徴をみても平安時代に造られた優品といえます。

写真１　不動明王坐像　全身正面　伊勢原市・大山寺

写真２　同　全身左斜側面

写真３　同　全身右側面

写真４　同　全身背面

写真５　不動明王坐像　顔正面　伊勢原市・大山寺

写真６　同　顔右斜側面

写真７　同　顔右側面

写真８　同　顔左側面

写真９　不動明王坐像　頭頂部　伊勢原市・大山寺

写真 10　同　像底

県内の平安時代の不動明王像は、平塚市・八剣神社、鎌倉市・極楽寺（大正時代に島根県より移入）、厚木市・法雲寺、藤沢市・宝珠寺の各像が知られます。さらに、東国に目を向けると、東京・金剛寺、埼玉・息障院、茨城・不動院、宮城・瑞巌寺、同大徳寺、岩手・西光寺等の像が挙げられますが、その中でも、本像は出来が良く都ぶりの作風を示していると言えるでしょう。

伝来についてははっきりとしたことがわからず、大山寺関係の史料上には本像に触れる記述をみつけることができませんでした。しかし、台座の銘文により安政４年（1857）に後藤斎宮慶明によって台座が新補されていることがわかり、彼の関わった仏像が他にも数軀同寺に伝えられるため、江戸時代には大山に存在したと考えてよいでしょう。

また、『吾妻鏡』によれば、建久３年（1192）５月、後白河法皇の七七忌法要をおこなった際に大山寺の僧が参加し、同年８月の北条政子の安産祈願を相模国の寺社に行わせた記事にも寺名を見出すことができます。この二つのできごとには、幕府発足以前からあった関東の由緒ある寺社が関わったとみられることから、大山寺も平安時代以来の霊験あらたかな寺院とみなされていたのでしょう。

本像がいつから大山寺にあったかどうかは史料からはわかりませんが、造られた平安時代から同寺にあったとすれば、当時の不動信仰を知るうえで貴重な資料となるはずです。

調査に際しては、大山寺主監篠宮聖尚様のご高配を賜り、神奈川県立歴史博物館薄井和男、伊勢原市教育委員会立花実、同葉山貴史、慶応義塾大学大学院増田政史の各氏の協力を得ました。末筆ながら記して謝意を表します。

なお本稿は、平成 28 年度個別研究重点配分「神奈川県域における平安時代彫刻の基礎的研究」による調査研究成果の一部です。

（じんの　ゆうた・学芸員）

参考文献

清水眞澄『かながわの平安仏』（神奈川合同出版、1986 年）

伊勢原市教育員会編『伊勢原の仏像』（伊勢原市教育委員会、2000 年）

神奈川県博開館 50 周年記念プロジェクト、始動！

神奈川県博開館 50 周年記念プロジェクトチーム

当館の前身である神奈川県立博物館は、人文系、自然系を幅広く扱う総合博物館として 1967 年に横浜の馬車道で開館して以来、多彩な活動を展開し全国的に注目されてきました。今でこそ都道府県立の博物館は多く存在していますが、当時はこういった総合博物館は極めて少なく、神奈川県立博物館はその先駆けとして大きく注目されることとなりました。その後、全国で博物館が多く設立されますが、その際に当館が一つの見本となることも少なくなかったようです。

博物館の活動を広く展開し、収蔵資料も増加するにつれ、旧横浜正金銀行・東京銀行の社屋を転用した博物館建物は段々と手狭となってゆきました。活動をより広範に展開させ、時代の変化や新たなニーズに応えてゆくため、1995 年に人文系、自然系が分離。人文系は「歴史博物館」、自然系は「生命の星・地球博物館」として生まれ変わりました。生命の星・地球博物館は小田原市入生田（いりうだ）の自然豊かな早川のほとりに新設され、歴史博物館は馬車道の建物を引き継ぐこととなりました。

2017 年は馬車道に神奈川県立博物館が開館してから 50 年となります。現在、当館は次なる 50 年に向け、博物館資料を次世代へきちんと残していくために必要な設備改修工事を行うため休館していますが、そんな中でも今年一年間かけて、皆さんと一緒に当館のこれまでを振り返り、そしてこれからの姿を考えていきたいと思っています。題して「神奈川県博開館 50 周年記念プロジェクト」。ここではその試みをご紹介します。なお、本プロジェクトでは神奈川県立博物館と神奈川県立歴史博物館の両者を「神奈川県博（けんぱく）」と親しみを込めて呼んでいこうと思います。

県立博物館と開館を祝う横断幕 (1967 年)

県博の思い出を共有、その広がりを可視化してみたい
―「みんなの神奈川県博アーカイブ」と「思い出分布図」

開館してから 50 年、神奈川県博は多くの人たちに支えられ、愛されて来ました。来館者の方から寄せられる様々な声は、私たち館職員にとって大きな励みになるとともに、よりよい博物館を築いていかなければという使命感や責任を改めて認識させてくれます。

博物館が 50 年を迎えるにあたり、そんなたくさんの声―博物館への様々な想い―を館職員だけでなく、多くの方と共有したいと思いました。「神奈川県にはこんなに多くの人に愛されている歴史ある博物館があるんだ」ということをみんなに知ってもらいたい、と。

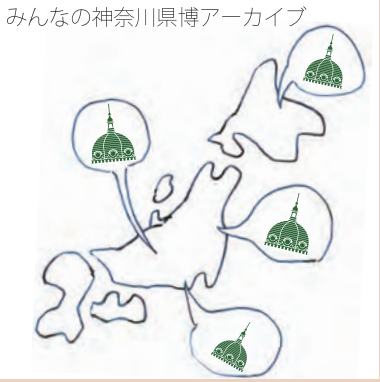
そんなことから、まず神奈川県博にまつわる思い出を募集してみようという話が持ち上がり、プロジェクトではそれに加えて「思い出の広がりを可視化する」という試みを考えました。神奈川県博に思い出を持っている人が、日本の、世界のどんな場所にいるのか、それを「思い出分布図」という形で示してみようと思っています。

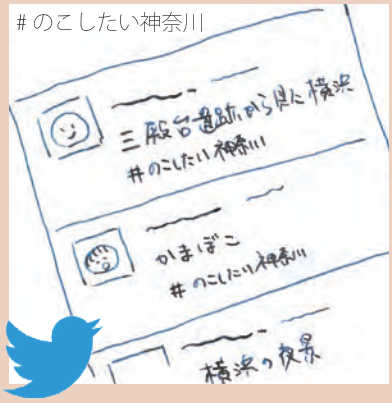
思い出の広がりを可視化することで、単に来館者がどこから来ているのかを認識するだけでなく、神奈川県博という一つの場を通じて、多様な人々の記憶を結びつけるきっかけにもなるものにしてみたい。それはさらに、当館のような地域に根ざした博物館の存在意義を再考するための大事な一視点にもなるのではないかと考えています。

ぜひ皆さんからのご投稿をお待ちしています。どんな些細なことでも、個人的なことでも大歓迎です。応募の詳細は当館ウェブサイトをご覧下さい。当館ならではの参加特典もご用意しております！

あなたのそばに、県博が。
―神奈川県博のカケラ

神奈川県博では考古資料から現代資料まで、神奈川の歴史を彩るさまざまな資料を収蔵しており、折々の





展覧会でご覧いただいていますが、それらのすがたを目にできるのは実は県博の展示室だけではありません。駅の広告、商店街のシャッター、行楽地の案内板などに当館の収蔵品が使用されていることは意外とあるのです。県博を飛び出して各地で活躍する収蔵品のさまざま。これらを「県博のカケラ」として位置づけ、過去のアーカイブから抽出し当館ウェブサイトでご紹介します。

毎日の通勤やお買い物で目にする日常の風景に、県博収蔵品が存在しているかもしれません。もし見つけましたら、ぜひ「みんなの神奈川県博アーカイブ」へ「見つけたよ！」とご投稿してくださいね！

あなたにとっての神奈川の魅力は？
―「# のこしたい神奈川」

神奈川県博は神奈川県域全体を扱う博物館ですが、もちろん私たちだけでは神奈川の魅力を伝え切れません。溢れ出る神奈川の魅力は皆さんの一人ひとりが感じているはずです。

ただ、なかなか普段は「神奈川」を意識することは少ないと思います。そこで私たちは twitter などの SNS で「# のこしたい神奈川」というタグをつけて呟いてもらうことで神奈川に想いを馳せてもらいたいと考えました。もの、場所、人、風景…あなたにとっての神奈川の魅力を改めて思い起こしてみてください。

当館営業部長のパンチの守（かみ）も色々な「のこしたい神奈川」を発信していきます。

50 年間ありがとうございました。
これからもよろしくお願いします。

50 周年を迎えるにあたり、当館がこれまで博物館活動を続けてくることができたのは多くの方のご理解やご支援のたまものと再認識しています。改めて皆さまにお礼申し上げます。

そして次なる 50 年を見すえ、今後もより魅力的な、多くの方に「のこしたい博物館」と思っていただけるような博物館となっていけるよう頑張っていきます。皆さまからの思い出のご投稿をお待ちしております。

ぜひ皆さまも一緒に「素敵な神奈川県博」を育てていきましょう！

神奈川県博開館 50 周年記念プロジェクトチーム
千葉　毅（ちば　つよし・学芸員）
神野祐太（じんの　ゆうた・学芸員）
新井裕美（あらい　ひろみ・学芸員）
橋本遼太（はしもと　りょうた・学芸員）
武田周一郎（たけだ　しゅういちろう・学芸員）
丹治雄一（たんじ　ゆういち・主任学芸員）
大島理加（おおしま　りか・主査）
野島愛子（のじま　あいこ・デザイナー）
伊藤友久（いとう　ともひさ・副主幹）
村野井聡（むらのい　さとし・主事）

ただいま休館中

施設改修のため休館中の当館の活動を紹介します。

地域巡回講座「三浦一族の本拠地を訪ねて」

今年４月 20 日に、横須賀市にある寺院や史跡に実際に足を運び、三浦一族が鎌倉幕府の重臣として活躍した時代をたどる講座を開催しました。目的地の一つ満昌寺では、当館の常設展に陳列されていた「三浦義明坐像」の実物（当館展示品は複製品）を観覧することができました。

満昌寺（横須賀市）

博物館体験教室（子ども向け）

当館では子ども向けの講座も実施しています。昨年度は、１月 29 日に「拓本をとってみよう」、３月 25 日に「まが玉をつくろう」を開催しました。学芸員による「お話」と、土器や銭の拓本をとったり、石を削って自分だけのまが玉をつくるといった「体験」をとおして、小中学生にも博物館体験を楽しんでいただきました。

「拓本をとってみよう」の様子

これからの催し物

■県博セミナーⅡ（全４回）

絵図で読み解く鎌倉の歴史

9/2・9・16・30（土）　14：00～16：00

受講料：4000 円（各回 1000 円）

外部講師をお招きし、中世から近代の都市鎌倉の歴史を、実際に絵図を見ながら学びます。

鎌倉絵図（写本）

■建物見学会

横浜正金銀行本店と横浜関内の関東大震災復興建築をめぐる

9/1（金）　13：30～15：45

（レクリエーション保険料など実費負担あり）

神奈川県立歴史博物館

■博物館体験教室（一般）

お茶くらべ

9/8（金）　①9：50～12：00　②13：50～16：00

小田原市郷土文化館分館　松永記念館を会場に、お茶の歴史と文化を学びます。裏千家流の茶道体験、仏教の伝来とお茶に関する講義、中世と現代の抹茶を飲みくらべ体験、展示見学など盛りだくさんの内容です。（お茶代など実費負担あり）

『背守（せまも）り』－子どもの健やかな成長を願うもの－

9/11（月）　①10：00～12：00　②14：00～16：00

背守りとは、幼児の着物の後ろ襟下などにつける縫い飾りで、これをつけることで災いや魔除けとしたものです。本講座では、講義と制作体験を通して、背守りについてご紹介します。

※日程・内容は都合により変更となる場合があります。

会場

宇徳ビル８階会議室（一部講座を除く）

受講料

県博セミナー以外は無料（保険料、観覧料等実費負担が必要な場合があります。）

申込方法

「往復はがき」に郵便番号・住所・氏名（ふりがな）・電話番号・行事名・開催日時（複数回の場合は希望回も）を明記のうえ、下記宛先へ。または、ホームページ「催し物案内」からお申込みください。１つの催しにつき１通でお申込みください（複数名で申込む場合は全員分氏名を明記）。申込多数の場合は抽選。

申込締切

７月 31 日（月）

申込先・問い合わせ

〒231-0007 横浜市中区弁天通 6-85
宇徳ビル６階
神奈川県立歴史博物館 事務室
企画普及課
電話：045-201-0926
※自動音声の後に「１」を選択
URL：http://ch.kanagawa-museum.jp/

発　行　神奈川県立歴史博物館
〒231-0006 横浜市中区南仲通 5-60
（休館中のため事務所は右記住所へ移転中）
TEL 045-201-0926　FAX 045-201-7364
http://ch.kanagawa-museum.jp/
発行日　平成 **29** 年 **6** 月 **22** 日
印　刷　株式会社トーカイ

表紙写真　不動明王坐像　伊勢原市・大山寺